

評価項目と観点	4：卓越 (Advanced)	3：目標到達 (Accomplished)	2：合格圏 (Marginal)	1：発展途上 (Developing)
A：話題設定： 与えられた課題に意欲的に接するなかで、疑問や問題点を見出し、話題を設定する。	課題から自分で話題を設定し、それを取り上げた理由や背景が述べられている。理由や背景には、自分たちの疑問や問題点が示されている。	課題から自分で話題を設定し、それを取り上げた理由や背景が述べられている。	課題から自分で話題を設定しているが、それを取り上げた理由や背景の説明が不十分。	課題に対して、自分なりの話題が設定されていない。
B：革新的な思考： アイデア・主張・問題点の指摘やその形式などの新奇性と独自性	設定した話題が独創的で、それらの延長として新しい知識や境界を超える知識を創造している。	設定した話題が独創的である。	独創的なアイデアで話題設定を試みている。	利用できるさまざまなアイデアを今までとは違った見方で見直している。
C：知識・理解： 設定した話題について様々な要因が関わることを理解する。	設定した話題について、多面的に検討し、その本質を理解している。またこれらの内容を分かりやすく説明できる。	設定した話題について、多面的に検討し、その本質を理解している。	設定した話題について、多面的に検討しているが、その本質の理解には至っていない。	設定した話題について、一面からの検討にとどまっている。
D：科学技術と社会の関わりを理解：	設定した話題の実現過程で想定できる社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任を正しく特定でき、背景に関する知識を使って各問題の重要性を説明できる。	提案した話題の実現の過程で想定される社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任を正しく特定できる。	提案した話題の実現の過程で想定される社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任をいくつか特定できる。	提案した話題の実現の過程で想定される社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任をいくつか特定しているが不正確である。
E：意見と結論： 自分の意見を持ち、その意見を支える根拠や情報、あるいは対立する考えを考慮して、結論を導き出す。	意見を支える根拠、あるいは対立する考えや論破の妥当性を考慮し、結論を導きだしている。これらの根拠や考えは、引用のための規則を正しく用いて紹介されている。	意見を支える根拠、あるいは対立する考えや論破の妥当性を考慮し、結論を導きだしている。	意見や結論は述べられているが、意見を支える根拠、対立する考えや論破の妥当性の考察が不十分である。	自分の意見や結論が述べられていない。
F：プレゼンテーション資料： 説明資料に視覚資料を含み、内容が整理されている。資料を用いて説明ができる。	説明資料は図表や写真などが含まれ、内容が整理されている。これらの資料を効果的に用いて、チームメンバーが協力しながら説明できる。	説明資料は図表や写真などが含まれ、内容が整理されている。これらの資料を効果的に用いて説明できる。	説明資料は図表や写真などが含まれているが、内容が整理されていない。	説明資料が文字ばかりで構成されており、内容の理解がしにくい。
G：コミュニケーション： 聴衆に自分たちの主張を伝える努力を行い、質問に対しては自信を持って適切な内容の回答ができる。	聴衆を引き込むような、アイコンタクト、元気な声の調子、ジェスチャーで発表を行い、質問に適切に対応できる。質問には、チームメンバーが協力して答えることができる。	聴衆を引き込むような、アイコンタクト、元気な声の調子、ジェスチャーで発表を行い、質問に適切に対応できる。	聴衆を引き込むように、アイコンタクト、元気な声の調子、ジェスチャーで発表を行ったが、質問への回答内容や態度のいずれかが不十分だった。	聴衆を引き込むような発表ができなかった。